

# エピソード71

子どもに合うかかわりをして  
欲しいというお母さんがいます



このエピソードでは、教職  
経験30年目 50歳代女性の  
先生の経験を紹介します。

なみちゃん

小学校教師として25年以上の経験  
があります。



この先生は、小学校通級指導教室の先生です。

通級指導教室に通う1年生のランさんの保護者から、通い始めた当初、担任の先生にランさんの特性に合ったかわりをアドバイスして欲しいと要望がありました。

ランさんは担任の先生の指示で行動できなかったり、授業中、気になることがあると立ち歩いたりすることがありました。



保護者からの要望を聞いて、先生が考えたことはどんなことですか？

担任の先生が授業を工夫していることを知っていたので、戸惑いました。

私が保護者の思いを適切に伝えられるか、担任の先生にポジティブに受け止めてもらえるか心配しました。

私は保護者と担任の先生と3人で、面談することを保護者に提案しました。

しかし、保護者はこの提案を躊躇していました。そこで、私は連絡ノートを活用し、ランさんや担任の先生から聞いた話を保護者に伝えました。



先生は、連絡ノートを使って、ランさんの学校での様子を伝える工夫をしたんですね。

ランさんは、通級指導教室に通う時には、保護者からのコメントが書かれた連絡ノートを持参しました。

次第に、集中して学習に取り組む姿が見られるようになりました。そして、ランさんから、「ぼく通わなくても大丈夫。」と話がありました。



そうですか。ランさんの様子が次第に変わっていったんですね。

担任の先生に相談してみると、落ち着いた生活をしているので、終了しても大丈夫と話していました。

保護者に終了に向けて話をしました。私は、「ランさんから終了しても大丈夫と話がありました。担任の先生も、落ちついた生活をしていると話していました。心配なことがあったと思いますが、ランさん、頑張りましたね。」と伝えました。





保護者から何かお話がありましたか？

はい。終了に向けてランさんと話し合ったそうです。また、連絡ノートを楽しんで読んでくれたそうです。そして、担任の先生が、授業中、全体で交流する場面を設けてくれたことに感謝していたそうです。「ありがとうございました。」と明るい声で話していました。

保護者は、私と担任の先生にランさんを委ねてくれたと思います。



保護者は、先生のことを信頼してくれていたんですね。

そうですね。ランさんの成長が見られて良かったですが、心残りがあります。もう少し、ランさんのことで心配しているその気持ちを汲み取り、心配することは、自然なこと当然なことだと伝えてあげたら良かったと思います。そうしたら、納得した安心感のような気持ちになれたかもしれません。

心残りがあったんですね…。



## なみちゃんの一言

- 保護者が我が子のことを心配する気持ちやそこから出てくる感情を汲み取り、心配するのは自然なこと、当然なことだと、保護者に伝えること、そのことで信頼関係を築くことができるのかもしれないね。
- 先生から「子どもを中心に周りの大人がそれぞれの領域でつながり、尊重しながら歩んだ、そんなエピソードでした。」と伺っています。

お・し・ま・い



なみちゃん

ナレーション 浪岡美保  
(北海道教育大学大学院 修了生)

イラスト 尾上樹里  
(北海道教育大学 大学院生)